

# 名古屋地学会第 305 回例会報告

津村善博

日時：2014 年 9 月 21 日（日）13:00～16:00

場所：三重県総合博物館（MieMu）

津市上津部田 3060

内容：①基本展示室見学（地学分野を中心に）

②企画展「でかいぞ！ミエゾウ」見学

③MieMu セミナー 大阪市立自然史博物館 林昭次学芸員の講演

参加人数：8 名

概要：三重県総合博物館のシンボルはミエゾウで、3 階の活動交流スペースに展示してある。（図 1）また、基本展示の地学のテーマは「三重の大地のなりたち（図 2）」である。

展示は、三重の地質を網羅的に紹介するのはスペース的に無理があるので、三重の地質を語るうえでポイントとなるテーマを選んである。新第三紀以前の三重の地質を紹介した「日本列島の骨組み（図 3）」、それ以降の地質を紹介した「カタチづくられる三重のすがた（図 4）」、現在の三重のすがたを紹介した「三重の多様な大地のすがた」の 3 部構成からなる。

詳しく説明する。「日本列島の骨組み」では、鳥羽市で見られるメランジュ、三重県で見られる付加体構成岩類と深成岩類や変成岩類、トバリユウ、中央構造線をとりあげている。「カタチづくられる三重のすがた」では、中新世の一志層群の化石を中心にした「一志の海」、東紀州の熊野酸性岩を紹介した「三重にあった巨大火山」、ミエゾウを紹介した「三重のゾウ」（図 5）の 3 つを取り上げている。「三重の多様な大地のすがた」では、山地、河川、海岸線などにみられる現地形と活断層を中心とした「今も動く大地」で構成されている。

「三重の実物図鑑」の展示室では、化石・鉱物・岩石にわけて、代表的な標本を展示している。化石では年代別に、鉱物は分類別に、岩石は川原の石と分類別に引き出しを利用して展示している。



図 1. ミエゾウ復元全身骨格標本.



図 2. 「三重の大地のなりたち」全景.



図3.「日本列島の骨組み」の展示.



図4.「カタチづくられる三重のすがた」の展示.



図5. 学芸員によるミエゾウの説明.